

# 5. 緑区遺産紹介

登録番号  
**11**

もちづか  
**餅塚**

長津田みなみ台七丁目

◆平成29(2017)年登録

交通

電車：JR 横浜線・東急田園都市線  
「長津田」駅南口から徒歩 22 分  
バス停：「上の原」（長津田駅前から市  
営バス 98 系統に乗車）から徒歩 6 分

申請団体



上の原グリーン  
ハイッ自治会

餅塚が緑区遺産に登録される前は、この場所は  
荒れ放題でした。登録後は付近住民の意識  
も変わり、歴史の場所として見守り活動を行  
っています。有志が春と秋に草刈りをし、  
U 字溝の清掃も行っています。盆にはお花と  
お水が供えてあります。



「餅塚」の塚の上には昭和 30 (1955) 年以前は小さな祠がありました。祠が朽ち果て、昭和 60(1985) 年に地元の有志が現在の石碑を建てました。石碑は 2m くらいで、正面に「十日市場地区土地関係萬霊大供養」と、側面には「餅塚」の文字が刻まれています。この餅塚は、老婆が塚の脇で餅を売っていたと言われることが地名の由来とされています。近くには処刑場があったと言われており、処刑場まで泣きながら歩いたとされる坂は、泣坂と呼ばれました。餅塚は上の原公園にあります。周辺は桜の木があり、満開になる春はとてもよい景観が見られます。

ちよいスポット



おのたちらくがん  
**御野立落雁**

大正 10 (1921) 年に皇太子殿下（後の昭和天皇）が陸軍大演習を統監されるためにお立ちになった場所です。皇太子殿下は記念に松を植えられ、その後約 7m の「皇太子殿下御野立之跡」の碑が建てられました。周辺の街並みを一望できる見晴らしの良い場所でもあります。なお、落雁とは雁が空から舞い降りる様子です。



ちよいスポット



かみじくじょう や とう しもじくじょう や とう  
**上宿常夜燈・下宿常夜燈**

大山参りが盛んになった江戸時代に、長津田は宿場町として栄えました。宿場内には旅館、食べ物屋、かご屋、酒屋、餅屋、せんべい屋などが並び、訪れる人をもてなしました。宿場の入口には常夜燈があり、たどり着いた旅人を歓迎するための灯火が灯されていました。なお、上宿常夜燈（大石神社内）には、火事が起きないようにとの願いも込められています。2 基の常夜燈は、ともに横浜市の地域史跡に登録されています。



ちよいスポット

**上宿常夜燈**

ちよいスポット

**下宿常夜燈**

ちよいスポット

なすぎか  
**泣坂**

いぶき野と十日市場町にまたがる「泣坂」と呼ばれた坂（旧道）があったと言われていました。「泣坂 昭和五十二年 横浜市」と刻まれた標識が建つ新道にも「泣坂」という道路愛称が残っています。

長津田駅周辺エリア

長津田駅周辺エリア

全部巡ると約 70 分

# 5. 緑区遺産紹介

長津田駅周辺エリア

登録番号  
**21**

## いわ がわ げき 岩川堰

いぶき野

◆ 令和 3 (2021) 年登録

交通

電車：JR 横浜線・東急田園都市線「長津田」駅南口から徒歩 11 分



岩川は、現在の東名高速横浜町田インターチェンジ付近から湧き出す水が、岡部・中村・御前田・下長津田流れ、恩田川に注いでいます。かつての長津田では、田んぼはおおむね岩川の両側に作られました。岩川の水は周辺農地の灌漑に使われるとともに、精米にする際の重労働を担う水車にも使われました。下長津田の灌漑にかかせない岩川堰は、大正 12(1923) 年の関東大震災で大破しましたが、国や県の助成金と地元の有志が出資した工事費で、大正 15(1926) 年にコンクリート堰に改修されました。現在は堰としては使用されていませんが、改修工事について岩川堰改造記念碑に記されています。



ちょい知識

### 堰で分かれる水の行方

堰があることで岩川は、本流と水路に分かれます。水路を辿ると横浜線で突き当たりますが、よく見るとかつては水が通り抜けていた穴があります。水の行方を追うことで、線路北側の田んぼでも灌漑用水としての役割を果たしていたことが分かります。



登録番号  
**14**

## きゅう おお やま みち かな がわ みち ぶん き みち しるべ 旧大山道と神奈川道分岐の道標

長津田六丁目

◆ 平成 29 (2017) 年登録

交通

電車：JR 横浜線・東急田園都市線「長津田」駅南口から徒歩 8 分



拡大



この台石が重要です!

旧大山道と神奈川道が分岐するところに、江戸時代在銘の石仏があります。石仏の台石には、「向テ右リ かな川 左 みそノ口」と刻まれており、分岐を示す道標となっています。

当時の交通標識の類のものとして存在し、大山道や神奈川道などに行き交う人々の案内となっていたと言われています。

昔の人は大山道を  
通って大山に  
向かっていたんだ  
(大山信仰)



ちょい知識

### 大山信仰

大山は相模平野の中央にそびえ立つ標高 1,252m の山です。神仏の宿る霊山として、古くから多くの人たちの厚い信仰を集めてきました。特に江戸時代中期以降には、庶民が五穀豊穡・雨乞い・家内安全・商売繁盛などを求めて、盛んに「大山参り」が行われました。このため、各所に大山に通じる大山道や大山道標が開かれ、神奈川県内には数多くの道標が存在します。

道標が置かれていた場所は、整地される前は栗林の裾でした。整地の際に、それまで欠けてしまっていたお地藏様の頭を土地の所有者が作ったので、頭だけ新しくなっています。地元の人々は、お地藏様として拝み、道標としての認識は少なかったようです。

申請団体



下長津田自治会

登録番号  
**13**

## よこ はま せん いわ がわ きょうりょう 横浜線の岩川橋梁

いぶき野

◆ 平成 29 (2017) 年登録

交通

電車：JR 横浜線・東急田園都市線「長津田」駅南口から徒歩 14 分



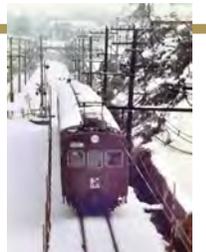
明治 41 (1908) 年に開業した横浜鉄道 (現: JR 横浜線) に架かる石積みの橋梁です。いぶき野を流れる岩川に架かるもので、大正 12 (1923) 年に起きた関東大震災にも耐えるほどの強度を持ち、石積みの技術力の高さが認められる橋梁と言われています。横浜鉄道開業から 100 年以上経った今も現存する数少ない石積橋梁で、貴重な近代土木遺産としても評価されています。

※撮影地点は、一般の立ち入りはできません。

ちょい知識

### 時代とともに変わる電車

現在の JR 横浜線 では、銀色の車体に緑と黄緑のラインカラーの電車が走っていますが、昭和の時代には「チョコレート電車」の愛称で親しまれた茶色の電車が走っていました (昭和 54 (1979) 年運行終了)。また、昭和 47 (1972) 年以降は、他線の中古車が転入し、スカイブルーやウグイス色の電車なども見られました。現在と見た目がよく似た電車が登場したのは、昭和 63 (1988) 年です。時代とともに、私たちが乗ってきた電車も、様変わりしていきました。



中山橋から鶴居駅方面を撮影  
撮影者：若岡 茂次 様  
撮影時期：昭和 53 年

# 5. 緑区遺産紹介

長津田駅周辺エリア

バス停から徒歩7分

登録番号  
**12**

## 高尾山

長津田町 ◆平成29(2017)年登録

交通 電車：東急田園都市線「すすかけ台」駅から徒歩20分  
バス停：「高尾原」（長津田駅前から神奈中バス津01系統に乗車）から徒歩7分

緑区の高尾山は、緑区最西端の長津田辻地域にあり、区内で最も標高が高い山です。（標高：100.46m）山頂には「飯縄神社」が祀られ、地元長津田辻・岡部谷戸地域の氏子によって毎年4月上旬に祭礼が行われています。

大山・丹沢・富士・箱根・秩父方面の眺望が素晴らしいところでもあります。また、西側の斜面地は、市域でも極めて少ないとされる縄文時代晩期の埋蔵文化財包蔵地として、考古学上也貴重な場所となっています。



すすかけ台駅からの地図はこちらからダウンロード（長津田地区のウォーキングコース）



▲高尾山頂上付近からの丹沢山地方面 ※山の名前と位置は目安です



登録番号  
**22**

## 一等三角点「長津田村」

長津田町 ◆令和5(2023)年登録

交通 電車：東急田園都市線「すすかけ台」駅から徒歩20分  
バス停：「高尾原」（長津田駅前から神奈中バス津01系統に乗車）から徒歩7分

明治時代、統一された規格と高い精度で国土を把握することを目指し、全国に一等三角点が設置されました。一等三角点でつくった三角形の三角測量を重ね、地図の骨組みとなる一等三角網が作られていきました。横浜市内で唯一の一等三角点の点名（三角点の名前）は「長津田村」といい、緑区高尾山の山頂にあります。明治16年、三角形の底辺として長さを実測した相模野基線（※）から「長津田村」を頂点とする三角形が結ばれ、全国を覆う一等三角網に繋がっていきました。後の5万分の1地形図に繋がる取組みがここから始まりました。

※相模野基線：一等三角点「下溝村」（相模原市指定文化財「相模野基線北端点」と一等三角点「座間村」（座間市指定重要文化財「相模野基線南端点」）を結ぶ直線で、明治15年に5209.9697mと観測されました。「我が国近代測量の発祥地」として公益社団法人土木学会の選奨土木遺産になっています。



長津田駅周辺エリア

登録番号  
**23**

## 長津田統制無線中継所跡

長津田町 5724 ◆令和7(2025)年登録

交通 電車：東急田園都市線「すすかけ台」駅から徒歩13分  
バス停：「高尾原」（長津田駅前から神奈中バス津01系統に乗車）から徒歩0分

長津田統制無線中継所は、東京から博多までをつなぐ無線電話回線の幹線をつくることを目的として、太平洋戦争中に建設が始まりました。当時の最新技術だった超短波多重通信の技術による画期的な計画でした。無線を受けるアンテナ柱は、3本の木柱を継いで25メートルもの高さ確保しました。戦争末期、当初の計画にはなかったことですが、長津田統制無線中継所は、富士山頂に急速建設された富士無線中継所とともに八丈島基地からのB-29爆撃機襲来を伝える役割を担いました。八丈島からの情報が司令部に伝えられ、空襲警報が発令されました。戦後の飛躍的な通信技術発展に伴い、昭和31(1956)年に長津田統制無線中継所が廃局になると、木製のアンテナ柱の一部は長津田辻自治会に引き継がれ、その後、半世紀にわたって火の見半鐘の柱として地域を見守り続けました。



▲昭和30年頃の長津田統制無線中継所。敷地内には官舎があり、地域とも深い交流がありました。



▲アンテナ木柱の一部は火の見半鐘の柱として再利用されました。